

公表

令和7年度 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターしんほんまち「あゆみ」			
○保護者評価実施期間	2026年1月5日		～	2026年1月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数)	9名
○従業者評価実施期間	2026年1月5日		～	2026年1月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数)	2名
○訪問先施設評価実施期間	2026年1月5日		～	2026年1月30日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	12か所	(回答数)	9か所
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月24日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援「あゆみ」でお子さんの生活全般の状況を把握したうえで訪問先施設を伺っており、お子さんの困り感についてより具体的な支援方法の共有や助言ができる	お子さんの発達段階や特性を理解したうえで訪問先施設の環境に応じた無理のない支援方法を伝えるようにしている。	訪問先施設の環境に配慮しつつお子さんにとって必要な支援の共有を図り、訪問先施設での実践がにつながる助言ができる訪問員の体制を強めたい。
2	ご家族と訪問先施設でのお子さんの相互理解を助ける役割を意識した訪問支援をしている	事前にご家族の思いや不安をお伺いし、訪問先施設で想定されるお子さんへの支援課題等について整理をしたうえで訪問している。 訪問後は訪問先施設でのお子さんのよい姿やがんばり、集団生活で困っている点等をご家族に伝えるとともに、訪問先施設が配慮していることや工夫している点、「あゆみ」からの助言内容についても共有し、ご家族と訪問先施設がともに前向きにお子さんに向き合えることができる関係作りを助けられる役割であるよう意識している。	ご家庭と訪問先施設、児童発達支援「あゆみ」が連携を取りながら支援を進められるよう互いの信頼関係の構築を目指す。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問頻度が少ない	ご家族からの要望や訪問先施設からの相談を受けて訪問の実施をしているが、要望自体も少なく一人当たりの訪問頻度が少なくなっている。	定期的な訪問を実施し、訪問先施設とより丁寧な情報共有を図り、ご家庭や訪問先施設でのお子さんの困り感や対応への不安を減らしていきたい。